（メッセ海外通信 2013年1→3月号掲載記事）

～中国共産党第１８回全国代表大会で示された中国の目指すべき道～

下関市総合政策部国際課
（青島市派遣職員）
三浦　万季

中国共産党第１８回全国代表大会（以下「１８大」と記載。）が１１月８日から１４日までの日程で北京の人民大会堂で開催されました。前回の第１７回から５年が経過した今、新たな中国のリーダーの誕生と共に、今後の中国がどのような道を目指すのか世界の注目を集める大会となりました。

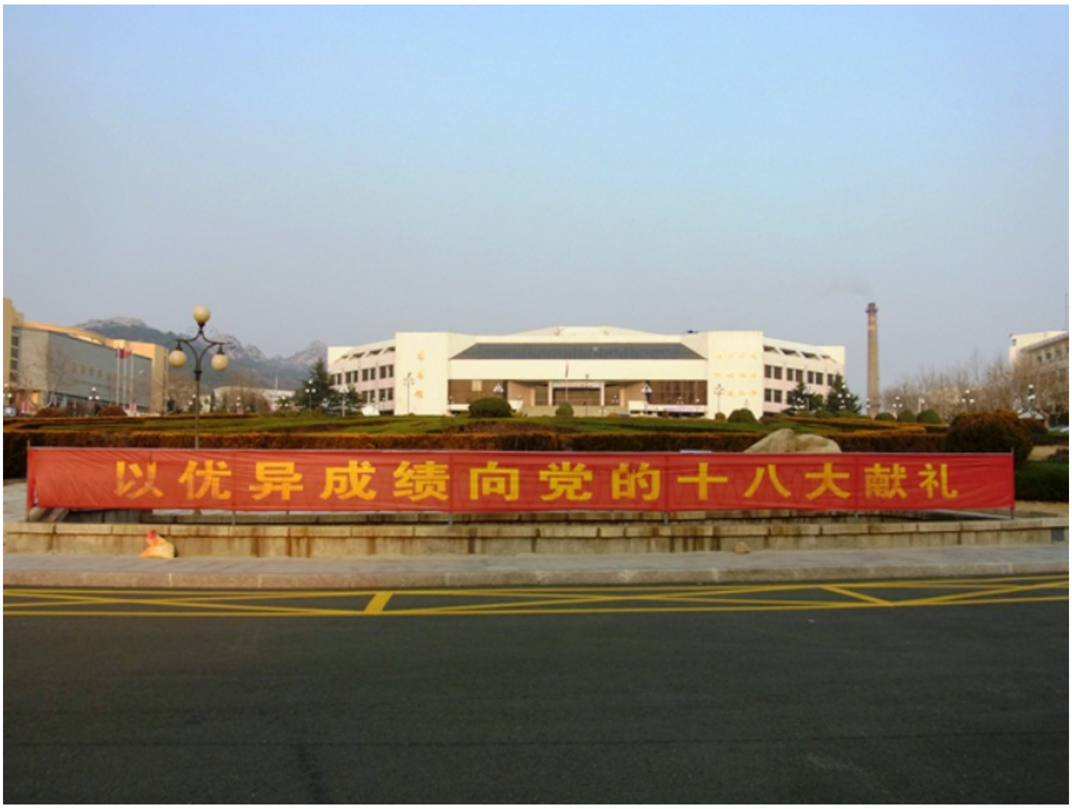
８日に胡錦濤氏が行った報告では今後の中国の目指すべき道が示されました。この報告の中で私が重要であると感じたキーワードは、「小康社会（衣食が何とか満たされている状態から裕福な状態へ移行する間の状態のことで、ある程度豊かになった社会）」、「中国の特色ある社会主義」、「エコロジー文明」です。

まず、第１６回からの１０年間で今後の目標となる「小康社会」に向けた基礎を作ることができたと評価するのと同時に、科学的な発展観をマルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論の三つの代表的な重要思想とともに、共産党が堅持し続けなければならない指導思想として挙げました。また、毛沢東を中心とする第一世代のリーダーは社会主義の基本制度を確立、鄧小平を中心とする第二世代のリーダーは改革開放を行い中国の特色のある社会主義を創出、江沢民を中心とする第三世代のリーダーは世界の社会主義が困難な状況に直面しても「中国の特色のある社会主義」を守り、社会主義市場経済体制の基礎を作ったと評価し、その上で、「中国の特色ある社会主義」は９０年以上に亘って構築してきた成果であり大切にしながら発展させていかなければならず、経済建設を中心としながら、四つの基本原則（①社会主義を堅持する②民主専制を堅持する③共産党の指導を堅持する④マルクス主義・毛沢東思想を堅持する）と改革開放を基にして「中国の特色ある社会主義」の新たな勝利を勝ちとらなければならないとしました。

また、国内外の状況に鑑みて今が発展のチャンスの時期であるとし、２０２０年までに全面的に「小康社会」を実現するという目標の達成に向け、経済の持続的な健全発展と共に発展の均衡性・調和性・持続可能性を高め、ＧＤＰと都市・農村住民一人当たりの所得・収入が２０１０年の倍となることを目標として定め、人民民主の拡大、文化のソフトパワーの強化、人民の生活レベルの全面的向上、資源節約型社会、環境にやさしい社会の構築を掲げました。特に、農村および中・西部地区への支援を強化し、これらの地区の改革開放、発展能力の向上、人民生活の改善を支援するとしています。

さらに、今回際立っていたのは「エコロジー文明」の建設を強調したことです。人民の福祉に関係する民族の未来にかかる大計であるとし、「美しい中国」を建設し、中華民族の永遠の発展を実現するとしました。資源の節約と環境保護を基本の国策として堅持し、節約優先、保護優先、自然回復を主たる方針として、グリー

ン・低炭素・循環型社会の発展を促進させるとしています。
　この報告では、発展の不均衡や科学発展の阻害要素の存在、都市と農村の発展格差・所得格差、腐敗の発生など、問題が多いことも指摘していますが、今はまだ経済発展を一番に考えた内容になっているという印象を私は受けました。
　中国には“国家興亡、匹夫有責”すなわち“国の興亡はすべての人に責任がある”という格言があります。この大会で示された問題の解決と目標の達成に向け、現在、様々な地域・組織で「18 大精神に学ぶ」とした学習会や報告会が開催されています。今後の中国の進むべき道が示された今、中国国民が一丸となってその道を進もうとしています。



青島大学内に掲げられた横断幕。「優秀な成績を１８大へ捧げる」と書かれている。